令和４年度授業改善推進プラン【国語】　　学校名　武蔵村山市立第三小学校

４年

【目指す授業】	児童が高い意欲をもち、進んで学習に取り組む授業
児童の実態・課題	具体的な手だて
○国語や漢字と聞くだけで意欲が高まらず、消極的になってしまう児童が複数名いる。 ○漢字の練習では、苦手な漢字に焦点を当てて取り組んだり、練習量を調節したりすることに課題が残る。	○授業の導入時に「ことわざ３ヒントクイズ」を毎時間行うことで、学習に向かう意欲を高める。 ○漢字の練習について、模範となる児童を学級全体で取り上げ、効率的な練習の仕方を確認する。

評価指標	６月	目標値	２月
国語の学習はどのくらい得意ですか。	75.4%	80%	81.1%
テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。	67.7%	72%	69.9%

【評価】	成果と課題
B	○漢字を反復して練習することで、学習の定着が見受けられる児童が増えた。 ○語彙が少ない児童が多く、問題文を読み取れない場面があった。

５年

【目指す授業】	話の内容を理解し、理解したことや自分の考えを表現できる授業
児童の実態・課題	具体的な手だて
○話を聞いていない、話の内容を理解できない、聞いた内容を忘れてしまう児童が多い。 ○自分の考えを他者に説明できる児童が少ない。	○大切なことは、話を聞く際にはメモをとったり、文章の際には線を引かせたりする。 ○授業の導入で、聞く・話すトレーニングを行う。

評価指標	６月	目標値	２月
他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。	35.3%	50%	61.2%
文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。	35.3%	50%	50.7%

【評価】	成果と課題
B	○授業の導入で聞くトレーニングを行ったことで、メモを取りながら話を聞く児童が増えた。 ○グループ活動等を設定しないと自分の考えを伝えられない児童が多い。

６年

【目指す授業】	互いに考えを発表し合い、話し合いたくなる授業
児童の実態・課題	具体的な手だて
○友達同士の話し合いやグループ交流が好きな児童が多く、考えを聞くことに意欲的である。 ○説明や発表になると、話し方や言い方が分からないことから、苦手意識をもつ児童が非常に多い。	○説明や発表の話型、説明の順序など、ある程度の型を用意しておく。 ○いきなり発表するのではなく、発表のための用意の機会を確実に活用できるように指導する。

評価指標	６月	目標値	２月
発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。	70.9%	80%	71.2%
文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。	47.6%	60%	48.5%

【評価】	成果と課題
B	○話す前に、一度文章を書いて読み直し、発表に臨む姿が多くなった。 ○相手を意識して話すことを積み重ねたことで、表現に気を付ける児童が増えた。

令和４年度授業改善推進プラン【算数】　　学校名　武蔵村山市立第三小学校

４年

【目指す授業】	・課題解決に向けて粘り強く思考する姿が見られる授業
児童の実態・課題	具体的な手だて
○解いてみたい、できそうという期待がある課題を前にすると粘り強く解決に向けて思考する姿が見られる。 ○難しそう、大変そうという問題になると意欲が下がる光景が見られる。	○課題提示で児童の興味を引き出すしかけ ⇒3 ヒントクイズや○×クイズなど ○解決につながるヒントを児童から引き出す ⇒ヒントに繋がるつぶやきを拾って共有

評価指標	６月	目標値	２月
算数で学習する言葉や公式は、見ないでも言えるようにしている。	59.5%	70%	65%
算数で学習した言葉を使って、自分の考えを説明している。	71.5%	80%	75%

【評価】	成果と課題
B	○校内研究で取り組んでいる「コトバンク」の積み重なりに一定の手応えを得た。 ○定着に課題があるため、今後も継続して言葉にこだわった指導が必要。

５年

【目指す授業】	自分の考えを図や表、言葉を使って論理的に説明できる授業
児童の実態・課題	具体的な手だて
○自分の考えをノートに書くことに抵抗は少なく、しっかり思考することができる。 ⇒根拠を明確に説明できる児童はまだ多くない。	○その時間内に身に付けたい力、知識を明確にして、全体で共有 ⇒まとめ時にはキーワードを提示して言葉にこだわりをもてるようにする。

評価指標	６月	目標値	２月
算数で学習した言葉を使って、自分の考えを説明している。	68.2%	75%	70%
問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	54.9%	70%	65%

【評価】	成果と課題
B	○図、表、グラフにすることで分かりやすくなるということを実感させることができた。 ○習得している児童と、そうでない児童の二極化が顕著になってしまった。

６年

【目指す授業】	算数が楽しい、問題を解くことが楽しいと感じられる授業
児童の実態・課題	具体的な手だて
○算数が得意、不得意の差が顕著であり、2 極化の特徴がある。 ○これまで学習したことを使って課題解決することを苦手としている。	○朝学習や、家庭学習等の時間で東京ベーシックドリル（自分の苦手とする領域）に取り組む。 ○既習事項を振り返られる時間を授業導入で設定する。

評価指標	６月	目標値	２月
算数の学習が得意である。	59.6%	70%	65%
問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	54.5%	70%	70%

【評価】	成果と課題
B	○継続的にベーシックドリルの診断テストを行ったことで「伸び」が実感できた。 ○問題文の読み取りには課題が残るので、文の構成にも意識をさせたい。